

教 科	科 目 名	単 位 数	学 年	学科またはコース	履 修
理科	生物基礎	2	3	全学科	選択

科目のねらい	生物や生命現象の持つ多様性を踏まえつつ、それらに共通する生物学の基本的な概念や原理・法則を理解する。 遺伝子・健康・環境など日常生活や社会に関わるテーマを通して、生物や生命現象に対する興味・関心を高める。
使用教材など	教科書：改訂 新編生物基礎（東京書籍） 副教材：改訂 ネオパルノート生物基礎（第一学習社）

期	月	時数	学 習 内 容	学習のポイント
一 学 期	4月	4	授業ガイダンス	様々な生物の比較に基づいて、多様な生物の中にもいくつかの共通性があることをその起源性に着目しながら学習する。 生命活動で必要とされるエネルギー転換を、代謝の概要の中で学ぶ。 実験や資料を通して、遺伝情報を担う物質としてのDNAのはたらき・性質、DNAの情報に基づくタンパク質の合成について学習する。
	5月	8	1編 生物の特徴 1. 生物の多様性と共通性 2. 生命活動とエネルギー	
	6月	8	2編 遺伝子とそのはたらき 1. 生物と遺伝子 2. 遺伝情報の分配	
	7月	期テ1 4	3. 遺伝情報とタンパク質の合成	
二 学 期	8月	3	3編 生物の体内環境の維持	実験・観察を通して恒常性のしくみを学習し、体内環境の維持と健康とのかかわりについて考えを深める。 身近な疾患の例など免疫に関する資料に基づいて、異物を排除する防御機能が備わっていることを理解する。 植生・バイオーム・生態系の多様性について身近な植生の観察などを通して学習する。
	9月	6	1. 体内環境の維持 2. 体内環境を保つしくみ	
	10月	中テ1 5		
	11月	9	3. 体内環境を守るしくみ	
	12月	期テ1 5	4編 生物の多様性と生態系 1. 植生の多様性と遷移 2. バイオームとその分布	
三 学 期	1月 2.3月	4 期テ1 0	3. 生態系とその保全	生態系の成り立ちを学習し、その保全の重要性について理解を深める。
合計		60		

観点	a 関心・意欲態度	b 思考・判断・表現	c 技能	d 知識・理解
観 点 の 趣 旨	日常生活や社会との関連を図りながら、生物の事象に興味関心を持ち、意欲的に探究しようとする態度を身につけている。	生物現象の中に問題を見いだし、探究する過程を通して、科学的に考察することができる。また、導き出した考えを的確に表現することができる。	観察・実験の基本操作を習得し、結果を的確に記録・整理することができる。	生物に関する知識を身に付け、生物の基本的な概念や原理・法則を理解することができる。
主 たる 評 価 方 法	授業態度 授業プリント 実験・観察 発表 課題学習	定期テスト レポート 発表	実験操作 レポート 発表	定期テスト 小テスト レポート 発表
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。				

評価項目・学習にあたって・評価点		
①定期テスト	1年に4回実施予定。普段の授業や課題に集中して、計画的に準備し取り組むことが大切です。ワークと授業プリントからの出題が中心となります。	70 点
②プリント レポート 課題提出	授業プリント・課題ワークは定期的に点検します。真剣に取り組み、期日を守って確実に提出してください。 また、観察・実験には安全に注意して意欲的に取り組みましょう。準備や後片付けを含め積極的に参加し、活動記録としての的確な内容のレポートを忘れずに提出すること。	30 点